

令和5年度 国語科 「文学研究」 シラバス

単位数	2単位	学科・学年・学級	普通科 2年A～G組
教科書	文学国語（筑摩書房）	副教材等	「新訂総合国語便覧」（第一学習社） 「音と形で覚える漢字の演習改訂版」（明治書院） 「読解評論文キーワード改訂版」（筑摩書房） 「改訂版読み・解き・覚える日本文学史必携」（第一学習社）

1 学習の到達目標

言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1)生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができるようにする。
- (2)深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。
- (3)言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。

2 学習の計画

学期	月	育成する資質能力	単元名	学習項目	学習内容や学習活動	評価の材料等
前期	4	・近代を代表する作家の日本文化論を読み味わい、独自のものの見方・考え方を理解するとともに、作品が書かれた背景や、他作品との関係にも関心を広げること。また、それらを通して、我が国の文化的な特質への理解を深めること。	創作を生み出す想像力に触れる	随想・評論 「陰影礼賛」 谷崎潤一郎	・日常生活に潜む「陰翳」の効果について、どのような表現が用いられているか整理し、筆者の美意識を確認する。 ・「闇」が効果的な働きをしている日常生活の例を挙げ、筆者の「闇」に対する考え方をまとめる。	行動の観察 記述の確認
	5	・自分とは異なる感じ方、人や物やことばとの関わり方の多様性を知り、複数の視点から捉え直すこと。	現実を多面的に捉える想像力を身につける	随想・評論 「記号論と生のリアリティ」 立川健二	・単にことばを表すにとどまらない手法で文字を用いた文学作品について、その表現が読み手にもたらす効果を考える。	行動の確認 ワークシート分析
	6			第1回考査		
	7	・不思議な世界との遭遇を描いた小説を通し、情景や心情を正確に読み取ること。そして、小説ならではの豊かな表現を学び、語彙を豊かにすること。	小説から情景や心情を読み取る	小説 「山月記」 中島敦	・フィクションの世界だからこそ際立つ人間の姿を読み取る。 ・作中人物のやり取りに注目し、小説の中の会話の表現方法を理解する。 〈言語活動〉 構成と展開を工夫して、変身物語を書く	行動の観察 記述の確認
	8 9	・筆者の論旨や表現の仕方を踏まえ、人間、社会、自然などに対するものの見方、感じ方、考え方を深めること。	世界の捉え方を明らかにする	随想・評論 「能 時間の様式」 杉本博司	・写真や能を通じて感得した筆者の論旨を読み取り、考えを深める。 ・「落花枝に帰らず、……業因かな。」という能「屋島」の引用を現代語に訳し、なぜ筆者がこの部分を引用したのか、話し合う。	行動の観察 ワークシート分析
		・語り手の視点や場面の設定の仕方、表現の特色について評価することを通して、内容を解釈すること。	「自己」を追い求める近代の特色について考える	小説 「こころ」 夏目漱石	・夏季休業中に「こころ」全編を読んでおき、感想を話し合う。 ・人間関係をおさえて、「私」の観察と分析、心理の揺れ動きを辿る。	行動の確認 記述の確認

学期	月	育成する資質能力	単元名	学習項目	学習内容や学習活動	評価の材料等
後期	10	・作品が成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえ、作品の解釈を深めること。	「自己」を追い求める近代の特色について考える	小説 「ころも」 夏目漱石	・人物のようすに留意して、物語を立体的に捉える。 〈言語活動〉 創作の背景について調べよう	行動の観察 記述の確認
	11	・人間、社会、自然などに対するものの見方、感じ方、考え方を豊かにする読書の意義と効用について理解を深めること。		随想・評論 「文学の仕事」 加藤周一	・筆者が説く「文学」の役割を踏まえ、柔軟な視点で捉え直す。	行動の確認
	12			第3回考查		
	1	・文体の特徴や修辞の働きなどを考慮して、読み手を引きつける独創的な文章を理解すること。 ・設定した題材に関連する複数の作品などを基に、自分のものの見方、感じ方考え方を深めること。	文体が持つ力を読み味わう	小説 「水仙」 太宰治	・「自己の天分とはなにか」をめぐる、人生のある時期に多くの人々が抱える普遍的な苦悩について、作者がどのように描いているか、着目する。	行動の観察
	2		文学作品を通して未来への思考を深める	随想・評論 「チャンピオンの定義」 大江健三郎	・本文を読んで、複数の言語の響き合いに着目し、忘れ得ぬことばの源を探る。	行動の確認
	3			第4回考查		

3 評価の観点

知識・技能	(1)言葉の特徴や使い方に関する次の事項を身に付けている。 ア 言葉には、想像や心情を豊かにする働きがあることを理解すること。 イ 情景の豊かさや心情の機微を表す語句の量を増し、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすること。 ウ 文学的な文章やそれに関する文章の種類や特徴などについて理解を深めること。 エ 文学的な文章における文体の特徴や修辞などの表現の技法について、体系的に理解し使うこと。 (2)我が国の言語文化に関する次の事項を身に付けている。 ア 文学的な文章を読むことを通して、我が国の言語文化の特質について理解を深めること。 イ 人間社会、自然などに対するものの見方、感じ方、考え方を豊かにする読書の意義と効用について理解を深めること。
思考・判断・表現	A 書くこと ・書くことに関する次の事項を身に付けている。ア 文学的な文章を書くために、選んだ題材に応じて情報を収集、整理して、表現したいことを明確にすること。イ 読み手の関心が得られるよう、文章の構成や展開を工夫すること。ウ 文体の特徴や修辞の働きなどを考慮して、読み手を引き付ける独創的な文章になるよう工夫すること。エ 文章の構成や展開、表現の仕方などについて、伝えたいことや感じてもらいたいことが伝わるように書かれているかなどを吟味して、文章全体を整えたり、読み手からの助言などを踏まえて、自分の文章の特長や課題を捉え直したりすること。 B 読むこと ・読むことに関する次の事項を身に付けている。ア 文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開、描写の仕方などを的確に捉えること。イ 語り手の視点や場面の設定の仕方、表現の特色について評価することを通して、内容を解釈すること。ウ 他の作品と比較するなどして、文体の特徴や効果について考察すること。エ 文章の構成や展開、表現の仕方を踏まえ、解釈の多様性について考察すること。オ 作品に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉えるとともに、作品が成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえ、作品の解釈を深めること。カ 作品の内容や解釈を踏まえ、人間、社会、自然などに対するものの見方、感じ方、考え方を深めること。キ 設定した題材に関連する複数の作品などを基に、自分のものの見方、感じ方、考え方を深めること。
主体的に学習に取り組む態度	(1)生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができるようにしている。 (2)深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにしている。 (3)言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養おうとしている。

4 評価の方法

評価規準に従い、小テストや定期考查の結果、提出物の内容、授業中の姿勢などを鑑み、総合的に評価する。

5 担当者からのメッセージ（確かな学力を身につけるためのアドバイス、授業を受けるにあたって守ってほしい事項など）

人間はどのように他者と向き合い、社会を営んでいくべきなのでしょう。理屈では解けないこの問題に対して、文学は粘り強く、言葉の力によって道筋を示そうとしてくれます。是非、授業外でもたくさんの文学作品に触れて下さい。また、授業前には音読や分からない語の意味の確認は予習として必ず行ないましょう。